

第47回 記者懇談会実施概要

- 1 日時 平成20年4月23日(水) 15時～
- 2 場所 100周年記念会館 第2会議室
- 3 内容

(1) 研究発表・質疑応答 (15:00～16:00)

- ・徳永^{とくなが}昌弘^{まさひろ} 商学部准教授

発表テーマ「地方からみたロシアの社会変動

——『世界地名大事典』(朝倉書店)の執筆を通じて」資料1

- ・田地川^{たちかわ}勉^{つとむ} システム理工学部専任講師

発表テーマ「実形状生体機能モデリングによる

循環器系・呼吸器系の微視的現象の解明と医療応用」

(2) 学内状況説明・情報交換 (16:00～16:30)

- ① 社会安全シンポジウムの開催について 資料2
- ② 理工系学部開設・工学部創立50周年記念祝賀行事の開催について 資料3
- ③ 教育後援会総会の開催について 資料4
- ④ スポーツサミットの開催について 資料5
- ⑤ 現代GPプログラム第6回「丹波を知る」「地域再生」公開講座の開講について 資料6
- ⑥ 関大生の活躍について 資料7

4 大学側出席者

河田悌一学長、安部誠治副学長、良永康平学長補佐、川原哲夫学長課長
徳永昌弘商学部准教授、田地川勉システム理工学部専任講師
加藤勝総合企画室次長兼高槻新キャンパス設置準備事務長取扱
堀田有香高槻新キャンパス設置準備事務長補佐
藤本清高広報室長、木田勝也広報課長 他

5 参考資料

- (1) 関西大学年史資料展示室企画展「正義を権力より護れ」チラシ
- (2) 「両棲集落 実測図×山田脩二の写真展(共催:環境都市工学部江川直樹研究室)」ハガキ
- (3) 国際シンポジウム「笑いを科学するⅡ」チラシ
- (4) 経済・政治研究所 第1回公開セミナー「企業価値研究班」チラシ
- (5) 東西学術研究所 国際シンポジウム「国境なきヨーロッパ」チラシ
- (6) 経済・政治研究所 第177回産業セミナー チラシ

以上

地方からみたロシアの社会変動——『世界地名大事典』（朝倉書店）の執筆を通じて

商学部准教授 徳永昌弘

【概要】

現在、『世界地名大事典』（全10巻）の出版プロジェクトが進行中である。1970年代に出版された同名書（全8巻）を全面的に改定する内容となっている。この間に、世界情勢の変化を反映して国名・地名の変更が続いており、1980年代末からの大きな社会変動を経験した旧東欧・旧ソ連諸国は、多数の名称変更が行われた地域のひとつである。

報告者はロシア連邦の担当者のひとりで、東シベリア地域を中心に約400項目にわたる執筆作業の中からみえてきたロシアの社会変動の一端を紹介したい。歴史に埋もれてきた地方、歴史の犠牲になった地方、これから新たな歴史を歩み始める地方など、現在のロシア社会の一断面を表す事例を中心にみていく。

【プロフィール】

京都大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科修了。京都大学博士（経済学）。東北大学東北アジア研究センター、日本学術振興会特別研究員を経て、2003年より現職。専門は市場経済移行諸国（主にロシア）の経済学・経済地理学。比較経済体制論（2009年度より新興市場経済論）とロシア経済論（同、ロシア経済とビジネス）の講義を担当。

最近の業績は、“Struggle for Survival in a Capitalist State: Analysis of the Re-Profiling Program for a Russian Enterprise”, *Kansai University Review of Business and Commerce*, Vol. 7, 2005 ; “Enterprise Restructuring in the Context of Urban Transition: Analysis of Company Towns in Russia”, *The Journal of Comparative Economic Studies*, Vol. 1, 2005 ; 「シベリアにおける社会主義工業化——ロシア後背地の変貌と実像」『比較経済体制研究』第14号、2008年など。『比較経済体制研究』編集委員、*The Journal of Comparative Economic Studies* の Review Editor を務める。

【概要】

「実形状生体機能モデリング」とは、ヒトの組織や臓器と同じ形状・構造・機能を持つ人工物を創製し、生体外でヒトの体内と同様に稼働させ、機能させること、かつそれにより、①ヒトの組織や臓器の機能の解明、②人工組織や人工臓器の創製・創薬・新診断法／治療法および生体分析機器の開発、を行うことを目的とした概念であり、研究・開発手法である。

我々の研究室（システム理工学部 流体力学・バイオメカニクス研究室）および研究プロジェクト（学術フロンティアセンター「ナノ・サブマイクロ技術を用いた模擬／人工生体組織の創製と新診断・治療法の開発」プロジェクト）では、センチ（ 10^{-2} ）メートル、ミリ（ 10^{-3} ）メートルのオーダーから、マイクロ（ 10^{-6} ）メートルの領域の測定、加工、生成技術を駆使し、「実形状生体機能モデリング」に基づいて、模擬／人工生体組織の創製と新しい診断法・治療法の開発を行ってきた。

本発表では、「実形状生体機能モデリング」研究の紹介と共に、どのように医工連携に役立つかについて、発表する。

【プロフィール】

1974年大阪市生まれ。1997年3月関西大学工学部機械工学科卒業。2002年3月同大学院博士課程後期課程修了と同時に、博士（工学）の学位を取得。2002年4月より、関西大学工学部助手。2006年4月より、同専任講師となり現在に至る。

専門：流体力学およびバイオメカニクス

受賞：2007年度日本機械学会奨励賞(研究)、可視化情報学会 第18期 学会賞 論文賞